

2. 情報教育に関するデータベース等の開発作成及び私立大学間の情報ネットワークの整備

2-1 ネットワークによる教育連携の実施・支援

ファカルティ・ディベロップメントに求められるIT活用法、教員の教育力、教育支援体制など教育改善に関する問題をテーマとし、FD研究者によるWebサイトでの事例報告や発表を行った。また、大学間連携による授業の共同化、教材の共有化、eラーニング支援専門人材の育成を振興するため、CCC協力拠点大学として帝塚山大学、青山学院大学との連携を図った。なお、電子ジャーナル等共同購入機構の活動強化を図るとともに、国立大学法人とも連携し、懸案事項の解決に向けての取り組みを行った。

(1) コンソーシアムの運営

16グループのCCC運営委員会の内、グループの合同を含め14グループを対面で開催して運営委員会の検討課題の意識合わせ、分野別学士力について検討を開始した。なお、看護学、体育学グループは開催しなかった。各グループでの活動は以下の通りである。

① 情報系グループ

19年12月、20年3月の計2回開催した。主として情報人材育成やカリキュラムの在り方について意見を交わした。具体的には、科目間の有機的連携を行うためのカリキュラムとして、企業におけるプロダクトマネジメントと各大学の科目とのマッピングを図ることなどの提起がなされた。また、人材育成に関連して、日本の大学の授業時間数は諸外国の大学と比べるとほぼ2分の1程度であること、また論文数を基準とした教員評価システムなどの構造的問題を解決しないと、今後世界と伍して競争できないことが確認された。なお、次年度は情報系人材の学士力について検討を始め、必要に応じて産業界からの意見も伺うこととした。

② 生物学グループ

20年3月の計1回開催した。中教審の「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」について自由討議した。教員評価には主観的評価と客観

的評価を両立させなければならないなどの意見があった。生物学教育の一般的な教育目標としては、自然科学的な考え方（論理的思考力）を身につけ、非科学的な言説に対して科学的な論証をもって反論する能力を滋養することなどがあげられた。このような教育目標を生物学の学士力として、次年度以降継続して検討することとした。なお、学士力については運営委員会での考えを本協会の生物分野FD研究員に意見を募り、最終的にとりまとめることとした。

③ 社会科学グループ (政治学、社会学、コミュニケーション関係学、国際関係学の合同グループ)

19年9月、11月、20年3月の計3回開催した。本年度は委員同士の交流を深めるために、政治学、国際関係学、コミュニケーション関係学の授業実践について報告を受けた。また、第3回では、中教審の「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」について自由討議したが、理系と比べ社会科学系はIT等の環境やコア・カリキュラムの整備が難しい等の問題点が指摘された。

④ 教育学グループ

19年6月、12月、20年3月の計3回開催した。本年度は、授業運営に関する情報交換を促進するため、委員会においては委員相互の授業事例実践やFDの取り組みについて報告を受け、さらにブログを通じて教育グループのFD研究員に情報発信するよう努めた。また、中教審の「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」を踏まえて、今後は教育学の学士力について検討を進めることとした。その際、教職者として身につけるべき能力のみならず、教育学を学んだ者が自分の子供を教育する場合に身に付けるべき「親力」、社会に出てリーダーシップを発揮する能力など、3つのカテゴリーにより学士力を考察することとした。

⑤ 電気通信グループ

19年6月（土木工学グループと合同開催）、12月、20年3月の計3回開催した。電気通信グループの本協会FD研究員との情報交流の積極化を図るため、ブログを活用することになり、ブログ上で扱うテーマやトピックスについての検討を重ねるとともに、「学士課程教育の再構築に向けて（審議

経過報告)」の学士力やコアカリキュラムの在り方について議論した。コア・カリキュラムは、電気通信工学系では標準化が既に図られているとの共通認識を得た。学士力については、最も必要である能力が「数量的スキル」と「論理的スキル」を確認したが、固有の能力について検討するため、次年度に継続して検討することとした。

⑥ 土木工学グループ

19年6月（電気通信工学グループと合同開催）、20年3月の計2回開催した。「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」の学士力について、最低限身に付けるべき土木工学固有の能力を検討していくこととした。但し、JABEEの認定基準が各大学の到達目標として認識されていることから、JABEEの基準をもとに考案し、本協会の土木分野FD研究員の意見を踏まえ、その上で企業関係者の意見も募ることとした。

⑦ 獣医畜産学グループ

20年2月に発足以来第1回目の委員会を開催した。委員会では、中教審の「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」を踏まえて自由討議したところ、コア・カリキュラムについては学会等により検討が進められている一方、分野の細分化や卒業生の進路先の多様化により、却ってコアが霞んでいるのが現状であるとの共通理解を得た。次年度は委員会内の情報交流を促進するため、委員相互による授業事例の報告を行うこととした。

⑧ 芸術系グループ（美術、デザイン学）

19年5、6月、20年1月、3月の計4回開催した。学習意欲の向上や多面的な評価による授業の通用性を確保するため、Webサイト上で学生、教員による相互講評会の企画、準備を行った。ブログシステムを利用した講評サイトを構築し、運営委員間で試験的に学生作品の掲載と学生同士による講評を行ったが、講評に必要な作品の紹介に関する情報を標準化するため、実施期間や評価希望項目、作品制作のコンセプトなど運営に必要な情報を整理した上で、20年3月に講評会参加への呼びかけを行った。

⑨ 数学グループ

19年6月、9月、10月、12月、20年3月の計5回開催した。数学

教育では、学生の学習意欲を高める工夫が教養系、専門系ともに重要な課題となっていることから、メタ知識として授業モデルを収集し、問題点を整理することにした。方法はブログを立ち上げてサイバーFD研究者に授業事例を投稿してもらい、ブログ上でFDのピアレビューを実施することにした。しかし、数学は各学問分野の基盤的となる学問であるため、各分野が求める数学の到達目標、能力の検討を優先することにし、20年度において学士課程で最低限身につけるべき数学固有の能力をまとめていくことにした。

⑩ 統計学グループ

19年6月、9月、11月、20年1月、3月の計5回開催した。学士力としての統計教育の意義・重要性を再確認した上で、到達目標、身につけるべき固有の能力を明確にするため、コア・カリキュラムを整理することにした。どの分野においても必要な能力（コアコンピテンシー）と位置づけ、データを用いて論理的思考、問題解決する分野共通に求められる能力、医学、経済、工学など個別分野に求められる統計能力について整理するため、当面共通に求められる能力の検討をすすめ、その上で各分野から固有の能力を聴取し、20年度に最終的にとりまとめることにした。

（２）教育研究情報共同購入機構の活動

通算4回目の全体会を20年3月11日に早稲田大学で開催し、私情協加盟、非加盟に関わらず全ての私立大学・短期大学に案内したところ、107大学より138名が参加した。

全体会では、19年度に私立大学図書館コンソーシアム(PULC)を通じて版元説明会を持ち、適正な価格モデル形成のための意識合わせを行ったこと、PULC、日本医学図書館協会、日本薬学図書館協議会による取り扱いタイトルが順調に増加していること、小・中規模校での導入が進んできたこと、本年度より新たに国内新聞記事データベースや外国語論文データベースの計3件が共同購入対象となった旨の報告があった。しかし、本機構の活動によるコスト削減の成果が分かりづらいこと、価格交渉の基礎となる版元経費の明確化、日本医学図書館協会、日本薬学図書館協議会との具体的な連携活動の内容が不明であること、さらには国立大学法人も含めた包括交渉の可能性など、機構の運営について今後対応しなければならない課題が改めて確認された。また、20年度からは本機構の在り方について公益性を強化することから「教育研究用電子情報整備支

援機構」に改称することが報告された。

(3) 大学間教育情報交流システムの機能強化

教育活動全般にわたる情報を「意思決定の支援」、「自己点検・評価」の側面から整理・体系化し、Webサイトを通じて相互に他大学の取り組みを把握できるよう、「私立大学間教育情報交流システム」を継続設置している。本年度の登録件数は、93大学、15短期大学で21校更新された。本システムでは、Web上にある教育情報の所在を登録するため、大学のWebサイトの更新に合わせて適宜更新していく必要があることから、電子メールで定期的に更新を呼びかけられるよう自動更新の呼びかけを行っている。

教育情報データベースの検索		私立大学間教育情報交流システム	
2 テーマからの選択 ※以下のテーマから選択してください			
1. 教育組織に関する情報			
(1) 教育体制			
☐ 1) 大学の教育理念・目標 ☐ 2) 国内外からの人材育成に関する提言 ☐ 3) 教育組織の編成 ☐ 4) 教員組織の編成 ☐ 5) 施設・設備等 ☐ 6) 財政	大学一覧大学一覧大学一覧大学一覧大学一覧大学一覧		
2. 入学普及方法に関する情報			
☐ (1) 選択の方法と基準 ☐ (2) 学生募集の広報活動			
3. カリキュラム、教育方法、教育成果に関する情報			
☐ (1) カリキュラム (2) 教育方法			
☐ 1) ファカルティ・デベロップメント ☐ 2) シラバス ☐ 3) 学生による授業評価 ☐ 4) 授業状況 ☐ 5) 他大学との連携			
私立大学間教育情報交流システム			
(1) 学園生活に対する支援		(現状) c. 学生相談・健康管理に対する支援 d. 学生のキャリアアップへの支援体制 (将来) a. 学生支援の将来計画	大学 タイトル 学生部学生生活課 健康 キャリアセンター 奨学課 奨学課 キャリアセンター 国際教育センター
(2) 奨学金		(現状) a. 学内奨学金の種類と支給状況 b. 学外奨学金の種類と支給状況	
(3) 就職支援		(現状) a. 職業選択に対する支援策	
5. 国際交流に関する情報			
(1) 外国大学との連携		(現状) a. 連携する各外国大学・連携内容 b. 各連携大学との協定事項 a. 留学中の学籍の取り扱い c. 単位認定の取り扱い	
(2) 留学制度		(現状) b. 留学中の学籍の取り扱い c. 単位認定の取り扱い	
(3) 留学生に対する支援		(現状) a. 留学生に対する支援策 b. 語学力など必要な能力をつけるための支援 c. 留学中の生活支援	海外留学のための奨学金 学部入試概要
6. 社会人の受け入れ、生涯学習に関する情報			
(1) 社会人教育		(現状) a. 社会人学生の受け入れ状況 (将来) b. 今後の実施計画	